

川崎市総合教育センター

## 報 所

川崎市総合教育センター

〒 213-0001 川崎市高津区溝口 6-9-3

Tel 044-844-3600

代表メール KEI30201@to.keins.city.kawasaki.jp

## 実践から学ぶ

川崎市総合教育センター

専門員 赤堀 侃 司

(東京工業大学教授)



筆者は、学校の授業を参観するチャンスに恵まれることがある。それは文字通りチャンスなのである。授業を見て、そうかと気づくこともあり、案内の先生から教えてもらうこともある。そうかと気づいた時は、今日はいいことがあったというような気持ちになる。それは、研究室で知った理論を実践という場で再現してもらって、再確認できた喜びかもしれない。

## 教師が支援すること

教師が子供の学習を支援することは当たり前であって、説明するほどのことでもない。しかし、支援とは英語では scaffolding で足場を与えるという意味である。子供が 1 階から 2 階に登るときに教師は足場としてはしごを与えるが、はしごに登るのは子どもであるというように意味である。理屈はわかっているにもかかわらず、ある小学校の授業を見たときに、これかと思った。社会科の「私たちの暮らし」の単元で、東京の地図を見て自分で感じたことをワークシートに記入して、その後数人のグループで、子ども達のワークシートを見てグループでまとめる活動であった。しかし、グループで話し合っまとめることは思ったよりもうまくいかない。見ていると各自が勝手に話をしたり、よく書いていた女の子のワークシートを写したりという、子ども達の活動がばらばらであった。リーダー役の子どもがいなかったからかもしれない。すると、教師が来て 1 人の子どものワークシートをそのグループの真ん中の机の上においた。それで、他の子ども達が興味を持ってのぞき込み、同じとか違うとか話が出るようになった。教師がしたことは、ワークシートをグループの真ん中においただけである。しかし、それが話のきっかけになった。子どもが自主的に自分の書いたワークシ

トを真ん中において、誰でも見えるようにすることは少しだけ勇気が要る。それを、教師が足場を与えたので話ができるようになったのである。

## 具体的な目標を持つこと

ある中学校で、中学生が授業の終わりに自己評価を書いた光景を見た。自己評価はほとんどの学校で取り入れられている方法で、特に目新しいものではない。しかし、そのチェックシートは少しだけ変わっていた。チェック項目の記述が理解できたかではなく、例えば、be 動詞の変化が理解できたかというような内容なのである。きわめて具体的な評価であった。したがって、すべての授業で同じチェック項目ではなく、教科毎、単元毎に異なり、ワークシートのそれぞれのシートの終わりにチェック項目があるので、イメージしやすいと同時に正確にチェックできる。理解できたかと言われても、何を理解したかは受け止め方で異なる。なによりも、漠然としている質問なので適当に答えるしか方法がない。しかし、このチェック項目であれば、その授業を思い出すことができる。今日の授業であの内容かと思ひだし、あの部分はどうも難しかったと思えば適当ではなく正確にチェックできる。これは、優れた方法と言えよう。

文献では、自己制御の学習として、記録すること、自己チェックすることなどが活動として挙げられているが、具体的であることはそのポイントである。例えば、ダイエットをする場合には、体重を毎日チェックするなどが推奨されているが、体重という具体的な数値であるから効果的なのであろう。

以上のように、はっと気づくのはそれが実践だからである。現場の実践から学びたい。

## 主な内容

・総合教育センターの研究特集 …… 2~7  
今年の研究成果の活用を期待

・高津区内 幼稚園・保育園・小学校懇談会 …… 8  
・わが町かわさき映像創作展受賞作品 …… 8

# 今年の研究成果の活用に期待

## —川崎市総合教育センターの研究特集—

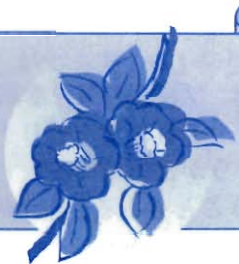
今年度川崎市総合教育センターでは、総括主題「豊かな学びをはぐくむ川崎の教育の創造」をきっかけ、研究を進めてまいりました。ここに、2月28日に当センターで開催されました研究報告会の全体会報告の概要と、今年度センターで取り組んでいるすべての研究の概要を掲載いたしました。研究の詳細は、センター紀要第20号（平成19年5月発行予定）及びWebにて発信いたしますので、ご活用ください。

センター研究報告会にご参加いただきました皆様、また、日頃よりご指導ご支援いただいている関係の皆様に、心より感謝申し上げます。

センター指導主事研究 全体会報告

### 児童生徒の豊かな人間関係を育てるために

#### 「いじめ」の現状：10年前との比較を通して



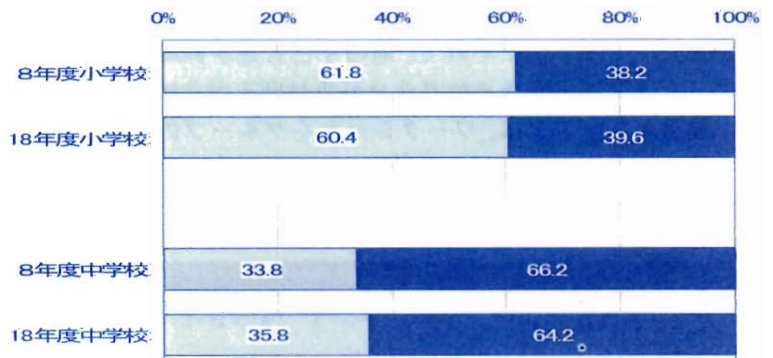
- (1)調査対象者 市内小学校4・5・6年 各区1校（1学年2クラス実施）7校  
市内中学校1・2・3年 各区1校（1学年2クラス実施）7校 計14校 2,920人
- (2)調査方法 自記式質問紙法（選択式、一部記述式）
- (3)調査の内容 10年前の調査の柱を基本に、子どもたちの実態に合わせて設問の内容や選択肢の内容を一部加除訂正した。
- (4)分析方法 18年度は、10年前調査との単純集計の比較を行い速報を発表する。  
19年度に男女別・学年別・自由記述などで細かい分析・考察を行いまとめを発表する。
- (5)結果速報（一部抜粋）

「私はクラスで楽しく学習している」という設問で、小学校では「いつもそうである」と回答した児童が、10年前と比べて、10%の増加で39.2%に、中学校も「いつもそうである」と回答した生徒が2.6%の増加で、18.7%となっている。また、「いつもそうである」と「ときどきそうである」の回答を合わせると、18年度小学校では70.8%の児童が、中学校は49.7%の生徒楽しく学習しているという結果だった。

しかし、「いじめられている友だちがいたら、どう思うか」という設問では、小・中学校ともに「自分では何もしないと思う」と回答した児童生徒が、10年前とほとんど変化はないが、傍観者になっている傾向が続いていることが推察される。「どんな理由があってもいじめは許さない」というメッセージを大人が発信し続けなくてはいけない。

いじめられている友だちがいたら、どう思いますか

- 自分が中心となって何かすると思う  
 自分では何もしないと思う





### 算数・数学科

「読解力」の育成をめざす  
算数・数学科の授業改善  
<長期研修員>  
秋山 起久雄(犬蔵小学校)

この研究に取り組んできたことにより、「読解力」そのものが今後、子どもたちが身に付けていく力としてとても重要であることがわかった。また、授業改善は、「読解力」という新しい視点に立って、今まで行ってきたことを見つめ直し、実践することが大切であると実感した。今後は、実践を通して検証を続けるとともに、他教科等との関連も視野に入れ、算数・数学科における「読解力」の育成について考えていきたい。

研修員 荻原 明恵 (宮前平小学校)  
藤田 幸市 (川中島中学校)  
軍司 匠 (南菅中学校)



### 理科

表現することを通して、考える力をはぐくむ理科授業  
<長期研修員>  
吉田 俊一(高津小学校)

考える力を育成する理科授業をめざし、子どもが自分の考えを明らかにできるような表現活動の位置づけ方と、「確信度」「考察得点」で子どもの表現を分析しながら教師の指導・支援の在り方を探った。

その結果、子どもが表現することで「曖昧な考え」をまず明らかにし、それを「確かな考え」として表現し直せるような表現活動が有効とわかった。そして、子どもの思考を活性化させ、「考えるポイント」を明確にさせる教師の指導・支援が必要だということがわかった。

研修員 須藤 和照 (橋小学校)  
大谷 健一郎 (西高津中学校)  
松井 佐千子 (井田中学校)

## 平成18年度 長期研修員と研修員による研究会議



### 図画工作・美術科

川崎市の小・中学校における鑑賞教育の現状と課題  
<長期研修員>  
中島 香(白山中学校)

市内全小・中学校を対象としたアンケートによる調査から、鑑賞学習の現状と課題が把握できた。そこから、川崎市の特色を生かした『「鑑賞の能力」を高めるための、小・中学校9年間を繋ぐカリキュラム編成』のガイドライン的役割となるものを作成した。

さらに、本研究から系統的なカリキュラム編成には、教師の共通理解が重要であることも確認することができた。

研修員 北村 健太 (生田中学校)  
大高 修 (日吉小学校)  
緑川 葉子 (子母口小学校)



### 家庭・技術・家庭科

「関心・意欲・態度」を育てる家庭・技術・家庭科の学習指導  
<長期研修員>  
望月 隆(生田中学校)

家庭・技術・家庭科の評価の観点である「生活や技術(家庭生活)への関心・意欲・態度」を育てることをめざし、指導と評価の両面から研究に取り組んだ。授業においては「情意への働きかけ」としての「感覚や感性を刺激する活動」と「継続的な感想記載活動」の2つの指導方法について題材を通して検証を行い、その効果が見えてきた。また、育てた「関心・意欲・態度」は題材前後に記載した感想用紙の変容から評価するという、長期的な視点に立った評価方法を実践したところ、高い一致率が得られた。

研修員 井上 真理 (宿河原小学校)  
齋藤 健太郎 (京町中学校)  
中尾 由美子 (高津中学校)



### 体育・保健体育科

「かかわり」を考えた学習指導の工夫

<長期研修員>

山川 佳美(向小学校)

「わかる」を切り口にして「かかわり」の充実を図り、学習意欲を高める授業づくりに取り組んだ。義務教育9年間における指導内容を成長発達や学年に応じて作成し、系統立ててバスケットボール(小6)・ハンドボール(中1)の検証授業を行った。その結果、わかることでかかわりが充実すること、技能が向上すること、それに伴って体育学習への意欲が高まることがわかった。

他の領域においても小中の連携を考えた指導内容を作成し、系統立てて指導していくことが今後の課題となる。

研修員 山室 忠敏 (王禅寺小学校)  
尾立 富久美 (野川中学校)  
加賀 勉 (日吉中学校)



### 国際理解教育

多文化共生の社会をめざした国際理解教育

<長期研修員>

矢崎 真弓(菅中学校)

「多文化共生」をめざす国際理解教育の授業として、人とかかわりを通した「協働型の授業」の研究に取り組んだ。研究から、「多文化共生」とは、人を理解し、自分を理解し、新たな人間関係をつくることであり、このような「人とかかわり」を、実体験をもって学習できるのが「協働型の授業」であることがわかった。また、研究を進める中で、協働型の授業の課題もいくつか見えてきた。研究のまとめとして、「協働型の授業モデル」の作成と外部講師とのよりよい連携の方法や留意点のまとめを行った。

研修員 和田 淳二 (登戸小学校)  
三井 秀夫 (土橋小学校)  
野村 志保 (宮前平中学校)

## 平成18年度 長期研修員と研修員による研究会議



### 児童生徒指導

参加・体験型人権尊重教育「Kタイム」

<長期研修員>

山内 浩正(上丸子小学校)

参加・体験型人権尊重教育の実践事例集を作成するにあたって、次の5点をめざした。

①参加・体験型授業の例示②30ページ③川崎市の児童生徒のもの④わかりやすい内容⑤見やすいデザイン。この実践事例集のねらいは、児童生徒の「人権感覚」を育てることであり、最終的には「自分や他者の人権を守るための実践行動ができる」児童生徒を育てることである。

研修員 橋谷 由紀 (坂戸小学校)  
井上 教夫 (金程中学校)  
入江 恵美子 (生田中学校)



### 高校教育

自分自身の適性を見いだす力を育成するキャリア教育

<長期研修員>

米丸 久美子(川崎高校)

自分自身の適性を見いだす力を育成することをねらいとして、ホームルーム活動におけるキャリア教育に関する研究を進めた。

具体的には、3年間の進路指導をキャリア発達の能力と関連付けて、単元目標と題材の展開例を作成し、1学年で検証授業を実施した。

進路を考えるうえで、生徒が自己理解の方法を学び、自分の適性に着目し、理解を深めていくことの重要性が見えてきた。

研修員 石本 秀樹 (高津高校)  
梶山 祐二 (川崎総合科学高校)  
鈴木 祐史 (橋高校)



### 映像制作

児童生徒の情報活用能力を  
はぐむ映像教材の開発研究

<長期研修員>

栃木 達也(宿河原小学校)

情報活用能力の育成に向けての問題解決的なアプローチとして、川崎の歴史を物語る「ニヶ領用水」を題材とした地域映像教材の開発に取り組んできた。

主に単元の導入で一斉に視聴する、課題作りのきっかけとなる「ビデオ映像教材」と、個々の調べ学習の資料、現地で調べるガイドとしての「デジタルクリップ」という役割の異なった2つの教育用コンテンツを制作し、3月中に市内の小中学校に配布する予定である。

研修員 釘本 裕介 (久地小学校)  
林 真 (住吉中学校)  
荒井 久雄 (西高津中学校)



### 特別支援教育

通常の学級における特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する支援の在り方

<長期研修員>

栗山八寿子(南生田中学校)

通常の学級で学習に困難を感じている子どもを対象に、放課後のオープン教室で学習支援を行った。オープン教室では個々の学習スタイルを見立て、それをいかした学習支援を行った。

取組の結果、自分に合った学習スタイルで学ぶことで学習に伴う困難が軽減し、成功体験を得ることが増えた子どもの自己肯定感は、向上していくが見えてきた。個の学びを保障する手立てとして、この取組の可能性を確認できた。

研修員 石橋 瑞穂 (東大島小学校)  
近藤 春樹 (川崎小学校)  
萩原 千香子 (富士見中学校)

## 平成18年度 長期研修員と研修員による研究会議



### 学校教育相談

援助ニーズの高い児童生徒のいる学級への教育相談的  
かかわり

<長期研修員>

溝部 晃(今井中学校)

授業中に私語や立ち歩きをしてしまう児童生徒を、「援助ニーズが高い」ととらえ、国語の授業において教育相談的かかわりを意識した授業を行った。児童生徒の行動の意味を探り、教師のかかわりの有効性について検討した。授業の中に共通体験、自分の居場所、役割があるとき、学級に対する適応感も高まり、学習意欲も変容する可能性のあることが見えてきた。子どもたちの行動を意味づけた上での授業展開として、視覚教材の活用やルールの確立を意識したグループワーク的手法なども有効であった。

研修員 中島 智美 (向丘小学校)  
平井 育子 (平小学校)  
篠原 謙太郎 (南大師中学校)



### カウンセラー研修員による研究

教師ができる不登校の子どもたちへのよりよい支援の在り方  
猫橋 則史 (南生田中)



不登校の子どもたちの状況を相談室の相談活動や心理の専門家の視点を通して把握してみた。そして、学校で不登校の生徒たちへの支援が円滑に行えるよう、学校で生かせるカウンセリング技法を習得し、教師ができる支援や指導法を探った。また、チーム支援を意識した校内指導体制の確立及び見直しについての考え方をまとめてみた。

### 専門研修員による研究

国語表現における論理的思考の育成  
石原 美奈子 (商業高校)



高校生の言語生活の現状をふまえて、彼らに必要なものは論理的思考力ではないかと考察した。論理的思考力は論理的な記述を繰り返すことでしか育成されないと考え、そのための単元を二つ実践した。その結果生徒の論理的思考力が育成されているかを研究した。

## 指導主事と研修員による研究

#### ★小学校における英語活動

小学校における英語教育のあり方

研修員 関野千穂子 (新作小) 塩山智子 (古市場小)  
渡辺 修宏 (宮内中)

小学校英語に関しては推進派、慎重派、反対派の三つ巴の議論が盛んである。いつ、誰が、なぜ、何の時間に、どのように、何を、教えたらよいのか、という疑問が小学校教員から多く届く。本会議では、先ず国の意向を把握しながら、市内の実態を調査し、先生方の生の声を参考にしながら、現段階での市としての基本的な考えをまとめた。具体的には3年前に発行された「指導の手引き」を改訂しながら、年間10時間を想定し、外国人講師がいなくても担任ができそうな授業案やカリキュラムを開発した。

#### ★幼児教育

幼稚園から小学校へ

～その接続に視点をあてて～

研修員 小林 美代 (高津小) 森島 美子 (有馬小)  
北相模和枝 (新城幼) 三谷千恵子 (生田幼)

就学前教育と小学校の接続部分の段差については、教師、1年生、保護者の聞き取りなどから、「環境の変化」「生活様式の変化」「友達とのかかわり方」「給食、清掃」「授業」の5つに大別された。特に1年生の児童からは「友達とのかかわり方」の困難が多くあげられ、幼稚園、小学校の観察調査も併せた考察を基に、入学当初の早い時期からの友達づくりに取り組むことが必要であるなどの提案を行った。滑らかな接続に向け、幼稚園・保育園・小学校へ、具体的な方法を盛り込んだ提案例を作成した。

#### ★健康教育

健康に生きる力を育む保健委員会活動をめざして

～自主的・実践的な活動となるための指導と支援のあり方～

研修員 佐藤夕起子 (上丸子小) 古牧 啓子 (川中島小)  
福寿 典子 (平中) 山崎 美穂 (稲田中)

自分に自信がもてない、健康に対する関心が低いなどの子ども達の実態がある。そこで、特別活動に位置づけられている委員会活動に着目し、児童生徒が主体となり自主的・実践的な活動となるための指導と支援のあり方を検証した。定例活動の事前活動の必要性、特にそこでのリーダーの育成が重要である。また、年間活動計画立案から児童生徒の意見を吸いあげることにより自分たちの健康・安全に関する課題に意識がもて自治的活動となり生きる力を育む保健委員会活動となるようめざした。

#### ★情報教育

情報活用の実践力の育成に関する指導方法の研究

研修員 小泉健一郎 (平間小) 下田 真稔 (御幸中)  
田中恵美子 (今井中) 内海 美香 (鷺沼小)

①各教科等の目標を達成するためにICTをどのように活用すればいいか、より効果的な授業展開ができるかを考え年間指導計画を作成した。②普通教室にプロジェクタを持っていき、パソコンや書画カメラ(DHC)、デジタルカメラ等の機器の活用方法をまとめた。③操作の戸惑いによる情報機器離れを減らし、児童生徒の学習意欲、学ぶ楽しさ、思考力の向上が図れるように機器操作マニュアルを作成した。Web上からも利用できるようにしていきたい。

## センター指導主事による研究

### 「特別な教育的ニーズがある児童が在籍する学級における授業の在り方」

カリキュラムセンター 金子やちよ 山本正昭 江尻孝美 新垣英一  
特別支援教育センター 増田 亨

特別な教育的ニーズがある児童への理解とその学級に対する支援の全体像をとらえ、授業の内容とそれに参加する児童の変容を追うことにより、授業の在り方を検討した。

### 「小・中学校の連携を視野に入れたカリキュラムの基礎研究」

カリキュラムセンター 和泉田政徳 明瀬忠義 上杉岳啓 大内孝二 金子 勉

9年間の教育を連続させることで、小学校から中学校への強い連携を図ることが可能となる。川崎らしい小中一貫教育を視野に入れ、系統立てたカリキュラム開発を行う指針となる基礎研究。

### 「日常的に指導できる情報モラルをめざして」

情報・視聴覚センター 増田 実 阿部 厚 井部良一 金野昌暢

情報モラル指導についての重要度が高まる中で、どのように指導していくことが大切であるかを、情報教育学校担当者に対する調査を中心にまとめ、「5分で指導できる情報モラル資料」作成に取り組んだ。

### 「通常の学級における特別支援教育の在り方」

—特別支援教育体制充実事業3年間の展開を通して—  
特別支援教育センター 高橋あつ子 佐藤 肇 稲野辺容子 増田 亨 巴 好子 荒井真理  
平成16年度から進めてきた特別支援教育体制充実事業の3年間の変化を掌握し、さらに学校が主体的に特別支援教育の校内体制を整える道筋を検討した。

### 「小学校と中学校との連携を中心とした、不登校対策の研究」

教育相談センター 堀米 達也 山本 浩之 亀山 益恵

平成16年度より、不登校対策推進事業として「フレンドシップかわさき」を立ち上げた。「フレンドシップかわさき」では、不登校の未然防止・早期解決をねらいとし、校内の体制作り、小中連携、機関・施設の連携強化等について実践研究を進めている。

### 「幼児期の保育の充実と支援をつなぐ在り方を探る」

幼児教育センター 荻原 恭子 小林 朝香 諏佐 裕子

平成16・17年度文部科学省地域指定研究「幼稚園等における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」を基盤に、川崎市の幼稚園・保育園で活用される「個別の指導計画」書式や記入例について事例を通した検討を行いながら作成する。

高津区内

## 幼稚園・保育園・小学校 懇談会

を開催しました。

幼児教育センターでは、同一敷地内にある高津小学校、みぞのくち保育園、地域子育て支援センター「たまご」、幼児教育センターの4施設で「複合施設連絡会」を行っています。

今年度も、この連絡会において、高津区内の幼稚園、保育園、小学校のそれぞれの機関の相互理解や連携を目的に、幼・保・小から42名の参加を得て、懇談会を実施しました。

幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭からの提案や、小グループに分かれての懇談会などを通して、「幼稚園・保育園の指導内容や、先生方の思いを知ることができた」「成長の過程に触れることができた」「1年生の具体的な姿を知ることができた」「幼稚園・保育園での生活を振り返ることができた」「このような異校種が集まる機会は、今後益々必要だと思う」などの意見や感想があげられていました。今後も、幼・保・小の連携の推進に向け、取り組みを進めていきます。



1月16日(火) 於：幼児教育センター

## 第24回わが町かわさき映像創作展で入賞されたみなさん

- |     |   |   |     |   |
|-----|---|---|-----|---|
| 全賞  | 河川敷の情熱家<br>麻生区の農業<br>実行しよう 伝えよう 私たちの願い        | 草柳正治<br>白鳥中学校放送部<br>宮崎小学校5年3組                   | 奨励賞 | 知ってる?こんな店 みっちゃく取材<br>久末小学校5年1組<br>ホワイトカーニバルに向けて 手話ができるまで編<br>岡上小学校チームホワイトカーニバル<br>南野川ミュージックタイム～ひびきあう心<br>高橋邦夫 |
| 銀賞  | かぜウィルスに負けない<br>住吉小学校健康委員会                     |   | 特別賞 | 鈴木義行<br>作品「マスの泳ぐ森林公園」   |
| 優秀賞 | 生麦 蛇も蚊も<br>Smile～私達にできる国際交流とは～<br>あきらめない 友情日記 | 三浦義次<br>宮前平中学校放送部<br>今井小学校映像制作クラブ<br>下作延小学校6年1組 |     |   |



昨年、昭和30年代を背景にした映画が話題を呼び、二度三度と繰り返し足を運びピーターも含めて、その観客数はかなりの数にのぼったという。その中には20代30代の人が多かったというから、この時代に懐かしさを感じる人だけではなくこの時代を知らない人をも惹きつける魅力があったのだろう。この頃に、東京の下町のはずれにある幼稚園の先生が

昨年、昭和30年代を背景にした映画が話題を呼び、二度三度と繰り返し足を運びピーター

子どもたちのつぶやきを克明に拾った本がある。そのつぶやきはどれひとつをとっても子どもの透明なまなざしや優しさ、生命力に満ちている。でも、それは今の子どもたちと同じもの。私たち大人が子どもたちのつぶやきを聴き取れる耳をもってさえいれば…。

どぶで おしっこした  
むこうから きれいなはっぱがながれてきたから、  
おしっこ おしまいにしたら  
おなが いたかった。 -みつはる- (Y)